

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社アイリスマーク		
事業所名	ふれあい小樽・稲穂(1F)		
所在地	小樽市稲穂1丁目1番1号		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172001018-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172001018-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・事業所は職員の資格取得や研修参加に対し協力的であり、意欲のある職員が学ぶ機会を積極的に提供している。</p> <p>・その人の体調、状態に合わせた無理のない生活が送れるよう職員が相談、連携しケアにあたっている。利用者一人一人の状態に応じ、手作業等日常の中で職員と一緒に出来るよう努めている。</p> <p>・地域の保育園や小学校との交流は定例化となり、利用者にも楽しんでもらっている。オレンジカフェのスペースとして1階ホールを開放し、利用者もそこに参加することで地域との交流が増えてきている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ふれあい小樽・稲穂は小樽駅から徒歩10分の繁華街にあり、平成18年3月に開設しています。美術館や博物館などの公共施設のほか寿司屋通りや小樽運河など観光施設にも近く、隣接するアーケード街は青果店や金物店など利用者も昔から利用していた商店が立ち並んでいます。事業所の建物1階の多目的ホールは「認知症カフェ」として年に4回開放され、地域と利用者の交流スペースとなっています。利用者の写真を豊富に掲載した事業所便りを毎月発行し、職員が直筆で記入した利用者の近況報告と一緒に家族へ配布しています。地域関係者、家族が参加する運営推進会議では、現状報告、ヒヤリハット報告、課題や取り組みを公表しているほか、スライドショーで利用者の様子や行事を伝えています。認知症の進行や重度化、高齢となっても、職員はそれぞれの利用者の意向に寄り添い、情報を共有して最善の支援に努めています。開設以来、職員教育の充実を図って内外の研修を重ね、培ってきた利用者一人ひとりへの支援内容、工夫の数々の記録は、研修記録、会議録とともにフォーマット化され、振り返り、分析、ケアの効率化に繋がっています。事業所名と理念に共通する「ふれあい」を実践し、課題解決へ積極的に取り組んでいます。</p>
--

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りにて全員で斉唱する事により、その理念を共有し、実践に繋げている。また名札の裏に携帯し、常に確認できるようにしている。	理念には事業所名の由来である「ふれあい」について記載され各ユニットの掲示板や職員の名札の裏に明記しているほか、毎朝の唱和で職員理解を促しています。理念の実践は、日々の直接支援や各記録作成時、介護計画策定時に確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の取引をしているところには交流もあり、時に協力を頂ける関係である。地域の保育園や小学校との催し物での交流も定例化している。またオレンジカフェの開催場所として1Fホールを開放している。	事業所は商店街の中にあり、商店と日常的な交流があります。保育園児や小学生が継続訪問しています。音楽療法士が関わっている「認知症カフェ」を多目的ホールで開催し、地域と利用者の交流の場としています。町内会総会に出席し、町内での基盤作りに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解という点では、積極的な活動は現在もできていないが、オレンジカフェの開催場所として1Fホールを提供し、地域の方との交流の場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施、外部の方、利用者家族も参加している。会議では事業所からの報告、参加者からの意見、要望を聞き、サービス向上に活かしている。不参加の家族には議事録を送付している。	運営推進会議は利用者家族、地域包括支援センター、地域住民等が参加し、ヒヤリハットや外部評価結果、スライドによる行事報告等を行っています。質疑応答も含めた詳細な議事録は欠席家族に送付しています。より多くの参加者を募るため、開催内容や開催日の検討をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に事故報告書等の相談し、指導・アドバイスを頂いている。運営推進会議に、中部包括支援センターの方にも参加して頂き、情報交換に努めている。保健所の出前講座を年1回程度開催している。	地域包括支援センターが運営推進会議に参加し情報共有を図っているほか、自治体の各担当者への相談、報告などを行っています。また、保健所の出前講座を活用し、職員と利用者がインフルエンザや感染症について知識を深めるなどの取組もしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての研修会に職員が参加し、その内容をホーム内研修にて、他職員に伝達している。全員参加ではない為参加出来なかった職員への伝達が課題。また、フロアミーティングの個別ケアの検討の中で身体拘束にあたる声かけを確認する等して取り組んでいる。	身体拘束禁止については各ユニットの掲示板で職員と来訪者に周知しています。身体拘束や虐待など人権擁護に関する委員会「守る会」を設置しているほか、外部研修に職員が順に参加し、研修資料の回覧と伝達研修を実施しています。玄関はセンサー等の設置はせず、防犯対策で夜18時以降は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修に職員が参加、ホーム内研修で内容を共有している。研修に参加できなかった職員は資料を閲覧するようにし、共有に努めている。研修内容も都度異なる為、全員に伝達できるよう検討、改善が必要である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいる職員はいるが、職員全員が理解している状態ではない。その時々で情報を収集したり、確認したり、相談したりしている状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に入居時に時間を掛けて、書面と口頭で十分な説明を行い理解・納得を図っている。質問も随時受け、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に直接、また家族には来訪の際や電話にて意見、要望を聞くよう努めている。また運営推進会議でも同様に意見、要望を聞くように努め、それらを運営に反映させるよう検討している。	利用者から聞き取った要望は個別記録へ記載し、職員間で共有し、対応しています。家族の意見や要望は、運営推進会議や来訪時、電話連絡時に聞き、内容を共有しています。直近ではゴミ箱の増設の要望があり、すぐに要望を反映しました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員と意見交換をする機会は少ないが、各フロアに入り、日常の中で意見を聞き取っている。また、ミーティングに参加、職員の意見を聞き運営に反映させる体制作りに着手している。	管理職は日常的に職員とコミュニケーションをとり、職員が意見を述べやすい環境作りに努めています。全職員が半年毎の個人面談、また毎年の自己評価に取り組み、支援の質向上を図っています。直近では、除雪の業者委託の対応を進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準では各自に向上心を導き出せるような体制作りに着手。成果も出ているが、まだ十分とまではいかない状況。今後も職場環境、条件の整備に努めていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会はあるが、参加条件的に参加が難しいものも少なくない。出来るかぎり多くの職員が参加出来るよう時間調整にも努めているが研修参加回数も減少気味。そのためホーム内研修にて情報を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	相互訪問研修を実践しており、サービスの質を向上させるよう努めているが、体制的に困難な月もあり、今年度は不参加。参加していけるように調整していくのが課題。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態、要望や不安な事等を聞き、可能な部分に対応していくことで本人が安心するような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からも要望等をしっかりと聴き、入居後も積極的に話しかけ、不安な面、改善点等互いに話し合いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人・家族の思い、状況を把握し、まず生活に慣れて頂く為の支援を優先、その後は必要な支援の見極めに努めている。特に初期段階においてこまめに連絡、情報を伝え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る事(洗濯物のアイロンがけ等)をやってもらおう等して、一方的にならないよう努めている。食事等も共にし、コミュニケーションを大切にしながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も立ち寄って気軽に本人との時間を過ごしてもらったり、電話で会話を楽しめるようにスタッフが支援する等本人を支えていく関係を築いている。家族来訪時には近況を伝え、その場で意見、要望を聞き対応するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院など、馴染みの場所へ行き続けられるよう努めている。又、年賀状等関係が途切れないように支援している。友人、知人の来訪もあり、気軽に来訪できるよう努めている。	入居前からの行きつけの美容室訪問、馴染みの寿司店の利用、知人の訪問などのほか、残暑見舞いや年賀状の作成支援も毎年続けて馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう利用者同士が会話したり、一緒に作業できるよう支援している。利用者同士の関係には常に気を配り、トラブルが発生した際には職員が間に入り関係の改善に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談や支援に取り組む姿勢は心がけているが、実際には交流は少ない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時の本人への聞き取りや何気ない会話等から、本人の思いや希望を把握するようにしている。難しい時は本人本位になるよう検討している。	入浴や受診など個別対応時に聞きとった利用者の意向は、個別日報に記録し介護計画へ反映しています。把握が困難な利用者の意向は、家族や関係者からの情報を基に利用者本位となるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報による生活歴や入居前にご本人やご家族からお聞きし、ホームでも可能な限り続けていけるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に過ごす事で一人一人の生活を把握するように努めている。その時の状態によって介助方法を変える等している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングは計画作成者以外の職員が担当している。	日頃から聞き取った利用者本人や家族の意向を踏まえ、全職員によるアセスメント、モニタリングを経て、計画担当者が介護計画案を作成しています。介護計画案はサービス担当者会議後に本計画となり、個人日報に支援の実践を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロア日誌や個別日報にケアの実践、結果等を記入し、職員同士が情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院、外出等、必要に応じ、出来る限り柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の音楽療法やオレンジカフェを開催したり、演歌ショーやひよっこ踊り保存会を招いて、利用者を楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、利用者それぞれのかかりつけ医に相談、指示を仰ぎながら、関係向上に努めている。	脳神経外科、皮膚科など入居前からのかかりつけ医への通院は家族や職員が同行しています。家族が同行できない時は電話や手紙で報告しています。平成28年12月から非常勤看護師を配置し往診医との連携が向上しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で週2回程度看護師が来ており、その時に情報や気づきを伝え、指示やアドバイスを受けて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報交換を行い、面会時には状態の確認、聞き取りを行っている。入院、退院の際は本人の状態を確認しながら家族と相談し、転院先の希望を聞く、退院を早めるなどの対応を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に意思確認を行うと共に、状態、段階に応じ話し合いの場を設け、方針を共有し、その時々の方針の変化に寄り添える様に努めている。その方針を主治医、医療連携看護師とも共有している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」は重要事項説明書内に記載し、入居時のほか、状況の変化に合わせて都度説明し、最善の支援に努めています。職員は内外の研修で支援技術や家族対応の知識を深め、主治医や医療連携看護師との連携を図っています。	事業所は看取りの重要性を認識しており、利用者や家族がより満足のいく支援、また職員の精神的負担軽減を組み込んだ「重度化・終末期の指針」の見直しを検討しています。事業所が目指す支援を全職員で検討し、明文化することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し、職員全員が普通救命講習を受講、急変時に備えている。定期的な訓練に至っておらず、機会を作っていく必要がある。この一年AEDは使用していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、地域住民や家族の協力を得て避難訓練を行っている。また、災害時の備蓄品も用意している(水・食料品)。災害時のマニュアルは現在作成中。	事業所の災害リスクはハザード・マップで把握しています。今年度は6月と11月に火災想定避難訓練を実施し、実際に非常ベルを鳴らして利用者の反応や内線通話が可能かを確認しています。災害備蓄品として、3日分の食糧と水を準備しています。	事業所は地域参加による避難訓練や、地震などの防災訓練の実施を喫緊の課題と捉えています。停電時対策として自家発電の導入なども検討しており、一連の課題を網羅した「防災マニュアル」の策定が期待されます。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者一人ひとりに合った言葉かけ、伝わり易い言葉かけを意識している。	人格の尊重について、特に利用者の呼称や言葉の使い方には不快感を与えないよう職員に徹底しています。一人ひとりの性格にあわせ、家庭的な雰囲気の中でも丁寧な言葉使いを心掛けています。プライバシー保護についての内部研修は毎年実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、フロアでの体操参加等、日常生活の中で自己決定出来るよう働きかけている。利用者の状態により、職員が介助する場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人のペース、決まった時間に沿って1日を過している方がいる。その人のリズムを職員が把握し、声掛けをしている。しかし全員の希望に沿うことは出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際や更衣の際等に本人と話をしつつ、その人らしくおしゃれ出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の用意や食器の片付け等利用者それぞれが活躍できる場面の提供に努めている。状態に応じた食事内容にも配慮している。	食事は3食とも職員の手作りで、利用者の要望にも対応しています。誕生会では利用者のリクエストメニューや出前寿司、ケーキが提供され、「粕漬け」「ニシン漬け」は毎年利用者と一緒に作っています。利用者は配膳や下膳、茶碗拭きなどに参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じ、食事の内容を変更、食べ易くする等対応している。嗜好品の他、乳飲料を身体状況に応じ提供、体の栄養バランスを考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて仕上げを介助、声掛け等の支援をしている。自力困難な方に対して介助、物品の手配等工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に応じ、下着・パッド類の見直し、使用の支援を行っている。出来る限りトイレで排泄できるよう誘導回数を増やす等対応している。	排泄介助は誘導時の声かけ、おむつ交換時のカーテン使用などプライバシーへの配慮を心掛けています。記録は生活記録表、個別日報、排便チェック表で管理し、健康状態とともに把握しています。また、衛生用品についても記録を基に見直し、使用量の削減に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤服用を調整している他、水分摂取、乳製品の飲食、運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来るだけ希望やタイミングに沿うよう努めている。その日入りたくないと言えがあった場合には別の日に変更する等対応しているが、状況に応じて100%対応出来ているわけではない。	毎日3名の入浴を支援しています。浴室壁と同色の手すりは赤テープを巻き、識別しやすくしています。入浴を拒む利用者の言葉を尊重し、利用者それぞれの誘導方法を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが安定するようその人のペースを考慮し支援している。体調に応じて居室にて身体を休めるよう誘導、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合には各書面を通して職員全員が把握出来るようにしている。薬に関する知識、情報も適時開示し、知識修得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	より楽しめる場面提供、好みに合ったレク等の提供に努めている。しかしその人の生活歴や力を活かした役割、楽しみの支援を十分に行えているとは言えない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生会では利用者の希望を聞き外出に出たり、行事イベントへの参加を支援しているが、日常的な希望に沿った外出は、出来る限り対応しているが時間、体制的にも難しいのが現状である。家族にも協力を頂いている。	家族の協力を得て外食、墓参等に出かけているほか、外気浴など可能な限り支援に努めています。利用者の認知症進行や重度化、加齢による歩行困難者が増加しているため、外出先の選択、個別やグループ別対応など外出支援策を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者の状態変化に伴い、ホーム側介助のみとなっている。個人購入の要望には買出し支援等で個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、必要性を感じた際は、積極的に電話の支援を行っている。残暑見舞い年賀状など季節毎のハガキ作成の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を作ったり、季節のお花、壁のディスプレイ等で季節感を演出している。その他、行事の写真を利用者の方に切り貼りしてもらって、思いつきの演出に配慮している。温度・湿度を定期的にチェックし、季節によって加湿器を設置する等している。	リビングの壁には季節ごとに利用者全員で作成したポスターや装飾品が飾られています。廊下には数多くの行事写真や絵画が生活感を演出しています。建物は旧手宮線に隣接しており、1階ホールの窓から観光客の往来が見え、気分転換のスペースとなっています。適切な温湿度管理をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれる空間作りはできていないが、利用者同士の関係作りのため気の合う人が集まれるよう席替えを行う等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は特に家庭で使い慣れた物の持ち込みを積極的に勧めている。途中からの入れ替えにも応じている。本人、家族の思いを出来るだけ受け入れる体制に努めている。	各居室の入り口にあるボックスには利用者の好みで人形・折り紙・造花が飾られ、個性を醸し出しています。居室内は持参した家具等が置かれ、利用者それぞれの生活習慣を尊重して支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングにて話し合い、安全で自立した生活が送れる様配慮している。都度危険物のチェック、設置状態について話し合い配置を変更する等している。		